

大和合金

三芳工場で切断機更新

銅合金の鑄造・鍛造
品メーカーである大和



合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏)はこのほど、埼玉県三芳町の三芳工場で梱包用木材の切断機を更新した。写真。作

だった。7月に新たに導入したのは刃が中に入ったタイプとなっている。合わせて木材を送るローラーがついており作業効率に向

業現場の安全性を高めることが狙い。両手で操作しなければ作動しない仕組みになっており、手のけがを防止できる。

以前は刃が出ていた帯鋸切断機。大和合金は10月6日からベトナムホーチミンで行われる工作機械・金属加工関連の展示会であるメタレックス・ベトナム・2016に出展する。東京都の支援を得て、自動車など輸送機器の部品製造で用いる素材約10点を展示する。日系企業の製造拠点

ベトナムの 展示会に出展

大和合金

は中国から東アジアにシフトしつつあり、特に労働力が豊富なベトナムでは今後自動車関連市場などで銅合金の需要が高まると見ている。

展示会では独自開発のNC合金を使った射出成型用の金型材料や、クロム銅などで造る抵抗溶接関連の材料を紹介する予定。製品説明などのために社員5人を派遣する。同社の参加は12年、15年に続き3回目となる。展示会の開催は10月8日までの3日間。